

1	福	島	県	に	お	け	る	特	定	健	診	結	果	と
2														
3														
4	○	桐	生	理	江		小	原	俊	子		菅	野	千
5														
6														
7														
8														
9														
10														
11														
12														
13														
14														
15														
16														
17														
18														
19														
20														

21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40

県北、県南、会津、相双、いわきの5地区に
分け、年齢階級、肥満、血圧、耐糖能、脂質
異常症、喫煙指数（BI：ブリンクマン指数）、
メタボリックシンドローム（メタボ）判定に
ついて、当協会で使用している判定基準に基
づき集計した。
【結果】
震災を受けた平成23年度の特定健診受診者
数は県北、相双両地区で大きく減少したが、
平成26年度には震災前の水準まで回復した。
年齢階級別では全体の半数を60歳代が占めて
おり、40歳代、50歳代は年々減少傾向にあっ
た。平成23年度以降の肥満、血圧、耐糖能、
脂質異常症、喫煙指数、メタボ判定について
平成22年度以前と比較すると、肥満要指導率
は相双地区での増加が著明であり、特に50歳
代男性は5%以上増加していた。血圧は加療
通院中が増加し、相双地区は他の地区に比べ
男女とも増加の割合が大きかった。耐糖能は、
全地区において、要指導率、要精検率ともに

41 増加していた。脂質異常症要精検率は、相双
42 地区の50歳代男性で4～5%増加していた。
43 喫煙指数では、全地区でBI 0～199からBI 200～399
44 へと増加していた。メタボ判定の基準該当率
45 は、県北地区と相双地区の両地区で増加して
46 おり、特に相双地区の60歳代男性は震災以前
47 の23%～25%から、平成26年度には34.8%とな
48 り増加が著明であった。
49 【まとめ】
50 県内5地区の結果を経年的に集計した結果、
51 相双地区では、肥満の要指導率とメタボ判定
52 の基準該当率が他の地区より増加していた。
53 その一因として相双地区の12市町村中9市町
54 村が原発事故による避難地域になっているこ
55 とから、震災後、生活環境の著しい変化の為、
56 多くのストレスを抱えていることが考えられ
57 た。また、23年度以降、全ての地区での耐糖
58 能の要指導率と喫煙指数は増加していた。こ
59 れは相双地区だけに限らず、県全体の生活習
60 慣の悪化であることを伺わせた。

